

市民会館跡地等整備対策特別委員会行政視察（概要）

- 1 視察日 令和元年10月16日（水）～17日（木）
- 2 視察項目（視察都市）
 - ・みんなの森ぎふメディアコスモスについて（岐阜県岐阜市）
 - ・穂の国とよはし芸術劇場PLATについて（愛知県豊橋市）
- 3 参加委員 委員長：松本泰典、副委員長：上田光夫
委員：長谷川浩、大嶺さやか、大村卓司、友次通憲

4 調査概要

岐阜市の「みんなの森ぎふメディアコスモス」は、平成27年7月に岐阜大医学部跡地に建設された図書館、ホール（230席）、市民活動交流センター、多文化交流プラザ、展示ギャラリー、オープンテラスを備えた複合施設である。事業費は総額約119.5億円で、館内にグローブ（吊り下げ型の漏斗形状のかさ）の配置を初め、木製格子屋根を組み合わせた自然換気や自然光の拡散、長良川の伏流水を利用した熱源計画などの工夫が施されている。平成30年度の来館者は、約126万人にも上るといふ、にぎわいの拠点施設となっている。

豊橋市の「穂の国とよはし芸術劇場PLAT」は、平成25年4月に開館した。建設はPFI方式、事業運営は公益財団法人豊橋文化振興財団による。建築構造は、鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上4階建て、客席数778席の主ホール、多目的のアールスペース、各種創造活動室、研修室等を備える。用地は、鉄道沿いのJR所有地等を区画整理及び土地購入で取得し、JR・名鉄豊橋駅からペデストリアンデッキで直結する。主ホールは演劇等の舞台芸術に特化した構造・設備を備え、首都圏で催される同規模の舞台芸術をそのまま開催することが可能となっている。



5 委員長所感

「みんなの森ぎふメディアコスモス」は、建築家の伊藤豊雄氏の設計であり、開発コンセプトの「中心市街地が抱える様々な課題に対応し、自然環境と良好な景観を創出する」拠点施設として整備された。「知・絆・文化」の拠点としての機能を見事に融合している。コンセプトの統一感や雰囲気大切に、利用者目線、実用面での配慮が行き届いた素晴らしい施設と感じた。

「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT」は、駅からのアクセスが良く、電車を利用しての集客力があり、在来線で30分圏内からが6～7割を占めるという。館内の移動は必ず同じ地点を通過するような構造になっており、人と人が出会い、交流することを誘導する。「劇場の使命は、人作りの拠点になること」との信念のもと運営をされているという思いを聴き、感銘を受けた。